

「安全」「環境」ニーズの変化を敏感にとらえ、半歩先の経営を実践する

～建設廃材運搬・再生処理の「株式会社黒姫」～

建設廃材は近年、単なる「廃棄物処理」から「再生利用」へと大きく方向転換してきました。また、安全や環境に対する世間の目も厳しくなっています。今回は業界の中でもいち早くこうした経営環境の変化に対応して優良顧客を拡大してきた、株式会社黒姫をご紹介します。

(1) 半歩先の施策で顧客の信頼を得る

同社は昭和45年創業、資本金9,800万円、従業員80名で荒川がすぐ近くに流れる足立区入谷に立地しています。中小企業ながらゼネコン（総合建設業）が本格的に環境関係の部署を作る前から環境や安全に積極的に取り組んできました。例えば、環境の面では国際規格のISO4001の認証を業界に先駆けていち早く取得しています。最近では解体時の粉じんや振動の発生を最小にするためにコンクリートを小割にしない運搬方法を開発しました。

また、安全の面ではドライバー教育を重視し、自社でインターネットを利用した適性検査をいち早く導入するなど、安全運転を徹底してきました。さらに人材育成に力を入れており、企業内大学と銘打って、社長が講師となるマーケティングの基礎を中心とした幹部・ドライバーへの教育を行っています。教育はまず目的を明確にすることから始め、従業員が主体的にやりがいをもって行動できることを重視しています。

こうした不断の努力により、ビルなどのコンクリート解体廃材（ガラ）の運搬・再生処理は「黒姫」に聞け

というようになり、学術的調査でもよく人が取材に来るそうです。

同社では「安全」「環

境」も含めた総合的な品質の良さでお客様の信頼を得ることを重視し、その結果優良企業との取引が広がっています。

(2) 二代目社長が経営理念を具体化

同社の経営戦略の根幹にあるのは、先代社長が標榜していた近江商人の心得である「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」の経営理念です。

「世間よし」という点では例えば中国で植林事業も行っているほどです。そういう理念が根にあり、敏感にニーズの変化を捉えることができるという点を見逃さないでしょう。現社長は会社を引き継いだ時にこう考えたそうです。「資本金や設備など財務面の資産」では当社よりはるかに

勝る企業が少なからずある。したがって当社は「目に見えない資産」すなわち顧客の信頼や従業員の活性度、品質などを資産として伸ばしていき、それで勝負しよう、と。

注目企業情報

(3) 今後の課題

同社が現在最も重要視している取り組みは、解体からガラの運搬、再利用のための再生処理という一貫した再利用システムの構築です。ただ、多くの廃棄物同様、出てくる廃棄物と再利用される品質と量のミスマッチがあります。その点で、技術開発や再利用先の開拓が必要です。それらは自社だけで行うのは難しく、研究機関や他社などの力を借りる必要があります。

社長から読者の皆様へ…

量の大小を問わず、ガラの再利用の可能性がある方は声をかけていただきたい。また、再利用のための加工方法などで良い方法があれば教えていただきたい。そうした連携先を探しています。



▲渡辺明彦社長とドライバーの適正検査装置